



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜北幸計画 新築工事	階数	地上17F
建設地	横浜市西区北幸二丁目11番15	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,305 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2021年3月15日
敷地面積	2,787 m ²	作成者	西松建設(株)関東建築支社
建築面積	1,465 m ²	確認日	2021年3月15日
延床面積	18,075 m ²	確認者	西松建設(株)関東建築支社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 85% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 85%

④上記+ 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.5
Q2 サービス性能: 3.2
Q3 室外環境(敷地内): 2.8
LR1 エネルギー: 3.6
LR2 資源・マテリアル: 3.9
LR3 敷地外環境: 3.1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺地域との景観の統一を図る建物配置、高さ、色彩とし、周辺からの見え方に配慮した。また、街区の緑とのつながりが生みだすにぎわいの拠点として、様々な使い方を想定した設えの公開空地を整備することで、多様なアクティビティによる地域の賑わいの創出を目指した。		その他 横浜市市街地環境設計制度
Q1 室内環境 住宅専有部分について、断熱性能等級4とし、高い昼光率を確保している。また、遮音性の高いサッシの採用や、F☆☆☆☆の建材を採用、建物内を禁煙とするなど、室内環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 横浜市福祉のまちづくり条例に適合し、住宅部分については住宅性能評価における劣化対策等級3を取得している。また、免震層の設置や空調・給排水配管の更新対策にも配慮するなど、建物のサービス性能の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化指数20%以上50%未満とし、地上部の植栽帯には自動灌水設備を設置、南側の公開空地には、シンボルツリーやパーゴラを主とした身近に感じられる豊かな緑、多様な利用を促す家具を設けることで、様々な人々が集まり、自然に親しめる広場を計画している。
LR1 エネルギー 住宅部分について、断熱性能等級4とし、住宅部分のBEI=0.88、非住宅部分のBEI=1.00としている。	LR2 資源・マテリアル 躯体材料、非構造部材についてリサイクル材を積極的に採用している。また、LGS下地やノンフロンの断熱材を採用するなど、資源・マテリアルについて配慮した設計としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率85%とし、光害の抑制に配慮するなど、敷地外環境の向上に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

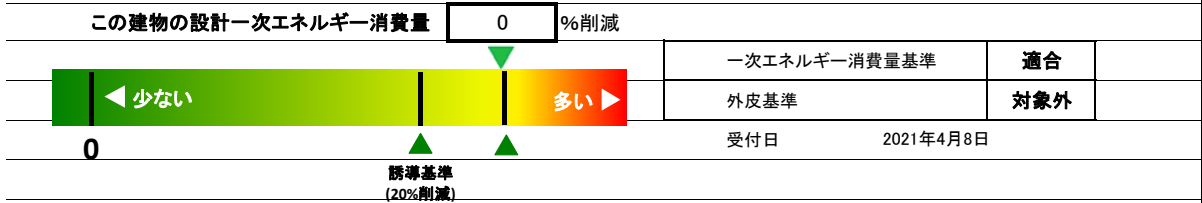


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)横浜北幸計画 新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①住宅部分:断熱等性能等級4

③住宅部分BEI=0.88、非住宅部分BEI=1.00

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫維持管理に配慮した設計

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮免震層の設置

⑯住宅性能評価における劣化対策等級3

⑰空調・給排水配管の更新対策に配慮している

⑰耐震クラスA

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入	



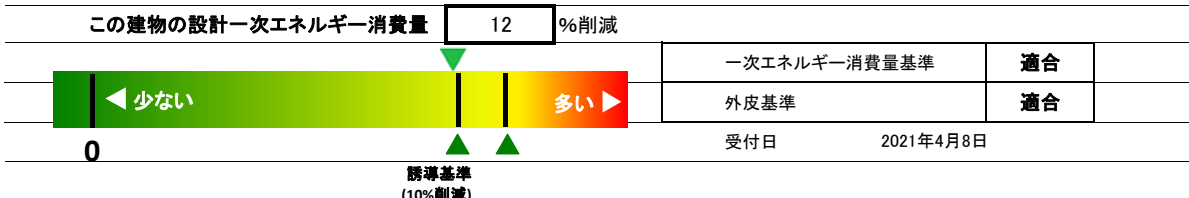
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)横浜北幸計画 新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 3

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①住宅部分:断熱等性能等級4

③住宅部分BEI=0.88、非住宅部分BEI=1.00

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 3

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮免震層の設置

⑯住宅性能評価における劣化対策等級3

⑰空調・給排水配管の更新対策に配慮している

⑰耐震クラスA

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)横浜北幸計画 新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		-		3.2	
Q1 室内環境					0.40				3.4	
1 音環境				3.8	0.15	3.3	1.00		3.5	
1.1 騒音				3.0	0.48	3.0	0.50		-	
1.2 遮音				4.8	0.48	3.6	0.50		-	
1 開口部遮音性能				5.0	0.93	5.0	0.30		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.07	3.0	0.30		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		-	
1.3 吸音				3.0	0.04	-	-		-	
2 温熱環境				2.6	0.35	4.0	1.00		3.3	
2.1 室温制御				3.0	0.50	4.0	1.00		-	
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.58	-	-		-	
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心		⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.35	4.0	1.00		-	
3 ソーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.07	-	-		-	
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.20	-	-		-	
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.30	-	-		-	
3 光・視環境				3.0	0.25	4.1	1.00		3.5	
3.1 昼光利用				3.0	0.31	4.2	0.50		-	
1 昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.59	5.0	0.63		-	
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	3.0	0.38		-	
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.41	-	-		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.50		-	
1 昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	1.00	4.0	1.00		-	
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.15	-	-		-	
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.25	-	-		-	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00		3.6	
4.1 発生源対策				4.0	0.58	4.0	0.63		-	
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00		-	
4.2 換気				3.0	0.38	3.0	0.38		-	
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.47	3.0	0.33		-	
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.06	3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.47	3.0	0.33		-	
4.3 運用管理				4.0	0.04	-	-		-	
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-		-	
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-		-	



CASBEE横浜2017年版v.1.7

(仮称)横浜北幸計画 新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目				
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q2 サービス性能				3.5	0.40	3.0	1.00	3.2
1 機能性				3.7	0.40	3.0	0.60	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.7	0.40	3.0	0.60	-
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.06	-	-	-
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.06	3.0	1.00	-
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.89	-	-	-
1.2 心理性・快適性				2.9	0.30	3.0	0.40	-
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.06	3.0	0.50	-
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.06	-	-	-
3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.88	3.0	0.50	-
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震				3.2	0.50	-	-	-
1	耐震性	防災	⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2	免震・制振性能	防災	⑮耐震・免震	4.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.10	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.4	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.06	3.8	0.50	-
1	階高のゆとり			5.0	0.60	5.0	0.60	-
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40	2.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.06	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.89	-	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)横浜北幸計画 新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮		3.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑬敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化		3.9	0.50	-	-	3.9
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.18	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	0.82	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				5.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.50	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-
2 污水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-
1 騒音				3.0	1.00	-	-	-
2 振動				-	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組		1.0	-	-	-	-
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策		3.0	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策		3.0	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策		3.0	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策		1.0	-	-	-	-